

乳幼児期肥満と成人時肥満との関連 —石川県における出生後20年間の縦断研究—

ツカダ	ヒサエ	ミウラ	カツユキ	キド	テルヒコ
塚田	久恵*	三浦	克之 ^{2*}	城戸	照彦 ^{3*}
サエキ	カズコ	カワシマ	ヒロコ	イカワ	
佐伯	和子 ^{3*}	川島	ひろ子 ^{4*}	伊川	あけみ*
ニシ	マサミ	モリカワ	ユウコ	ニシジョウ	ムネコ
西	正美 ^{5*}	森河	裕子 ^{2*}	西条	旨子 ^{2*}
ナカニシユ	ミヨコ	ヨシタ	カツシ	ナカガワ	ヒデアキ
中西	由美子 ^{2*}	由田	克士 ^{6*}	中川	秀昭 ^{2*}

目的 乳幼児期の肥満が成人後の肥満にどの程度結びつくかについての日本人でのデータは乏しい。本研究は乳幼児期（3か月，12か月，3歳）の肥満度と成人時（20歳）の肥満度との関連を明らかにし，乳幼児健康診査（以下，健診）時の肥満指導のための基礎資料を得ることを目的とする。

方法 石川県某保健所管内において1968-1974年に出生した20歳男女を対象として行われた成年健康調査を受診した男女のデータと，同管内における3か月，12か月，3歳の乳幼児健診データとのレコード・リンケージを行い，全ての健診を受診して20年間追跡できた2,314人（男1,080人，女1,234人）を対象とし，乳幼児期と成人時の肥満度の関連について分析した。

成績 各月齢・年齢のカウプ指数（または body mass index (BMI)）相互間の相関を見たところ，20歳時のBMIと3か月時・12か月時・3歳時のカウプ指数との間ではいずれも有意な正相関が認められ，中で最も強い相関を示したのは3歳時カウプ指数とであった（男 $r=0.33$, $P<0.001$ ，女 $r=0.42$, $P<0.001$ ）。乳幼児期の肥満度カテゴリー別に20歳時の肥満者（BMI 25 kg/m^2 以上）の割合をみると，3歳時カウプ指数15未満の者では男で4.6%，女で1.0%であったが，3歳時カウプ指数18以上の者では男で29.1%，女で29.5%にのぼり，カウプ指数15未満の者に比べ男で6.3倍，女で29.5倍の率となった。3か月時および3歳時におけるカウプ指数が平均未満か以上かのカテゴリー別に20歳時に肥満になっていた割合を検討したところ，3か月時のカウプ指数が平均以上か未満かを問わず，3歳時のカウプ指数が平均以上であったもので割合が高かった。

結論 乳幼児期の肥満度は20歳時の肥満度と強い関連があったが，3歳時との関連が最も強かった。3歳時に肥満であった児は成人時にも肥満である率が約30%と評価され，本データは3歳児健診における将来の肥満のアセスメントに利用できると考えられる。

Key words : 小児肥満，成人肥満，疫学，縦断研究

* 石川県南加賀保健福祉センター

^{2*} 金沢医科大学公衆衛生学

^{3*} 金沢大学医学部保健学科

^{4*} 石川県石川中央保健福祉センター

^{5*} 石川県成人病予防センター

^{6*} 国立健康・栄養研究所

連絡先：〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学 1-1

金沢医科大学公衆衛生学 三浦克之